ニューヨーク以外は鉄製日附印にＰＡＱＵＥＢＯＴと言う文字の入った消印は殆どなく、すこぶる小さいゴム印に依って処置されていた。

北米は先進国だけあって、すみずみに至るまで引き受けが徹底していました。以前はデンマーク領であったヴァージン島はＰＡＱＵＥＢＯＴ表示が手書きでしたので郵頼によりゴム印の押捺を要求した結果ＰＡＣＵＥＢＯＴ（Ｃの字の入った誤綴りに注意）のゴム印押捺に依り驚くやら、喜ぶやらでした。現在は手書きでなくゴム印押捺されているようです。太平洋の楽園グアム島はやや小さめのＰＡＱＵＥＢＯＴ　ＭＡＩＬと特異なＰＡＱＵＥＢＯＴ表示が米国特有の郵便局赤紫色のゴム印を押捺して発送されたようです。引き受けが文字通りReceived と言う到着印に依り消印されるのが通例で殆どの開港主要局にはＰＡＱＵＥＢＯＴのゴム印が配備されているようでした。カナダのクェベックに入港し河を渡ってのクェベック中央局とクェベック州レビス局の二局に船函郵便の引き受け且つ発送を依頼したところクェベック中央局はそのまま引き受け発送されレビス局にはＰＡＱＵＥＢＯＴゴム印がないので、クェベック中央局に転送してくれる親切さには英連邦なるかなと感嘆しばしばでした。カナダＮ.Ｂ.（ニュールンベルグ）のＳＴ.ＪＨＯＮＳは鉄製日附印の中にＰＡＱＵＥＢＯＴの文字入りを使用していました。Scotland の St. Jhons 局も船員郵便が誤配達されたためにＰＡＱＵＥＢＯＴ　ＭＡＩＬを郵頼したところ懇切な取り扱いでした。

g．南　米

ブラジル：世界で二番目に切手発行した郵趣先進国のブラジルの最大開港都市のリオデジャネイロ（註11）は世界三大美港の一つに数えられ、多くの外航船の出入りが頻繁なことでも有名です。ＰＡＱＵＥＢＯＴと言う語句で船舶の絵を表示したユニークな一見したところ記念印のような面白いＰＡＱＵＥＢＯＴゴム印があるにもかかわらず言語障害で引き受けは余り円満にはいっておりませんでした。ＶＩＴＯＲＩＡ（Ｃの字の欠けた）ヴィクトリアと言う小さな港では２時間程を身ぶり手ぶりまで入れて、四苦八苦の説明の結果やっと引き受けてくれました。船便発送のものも、すべて航空発送として処理されＰＡＱＵＥＢＯＴ印が脱落している郵便物が到着した。韓国の交換局では韓国切手が貼られているので、ブラジル消印にもかかわらず東京事務所の方に転送され、ブラジル→韓国→日本に僅か１週間しかかっていませんので航空扱いにされた事は間違いありません。それ以外にＰＡＱＵＥＢＯＴ印を配備していたサントス港の中央局は非常に鮮明なＰＡＱＵＥＢＯＴ表示をしていたのが印象的でした。

ペルー：チムボテと言う奇妙な文字の開港地の一番大きな局を訪れて驚いたのは郵便局とは名ばかりの板小屋のようなバラックで船函郵便は初めてで首都リマの中央局に長距離電話で問い合わせて、筆者の寄付したＰＡＱＵＥＢＯＴ印を押捺して船函郵便が引き受け発送の運びとなり、一寸ばかり珍しいカバーとなりました。